

進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2011.6.6

No. 19

産業視察無事終わる



先日5月30日に上伊那地区の高校生の産業視察及び進学ガイダンスが行われました。本校では参加者全員が真新しいスーツ姿で参加しましたが、ちょっと大人びて見違えるような雰囲気となり、皆真剣にそれぞれの見学会に参加しました。

今年は他校の生徒も含めて大分落ち着いた良い雰囲気で参加できたように思われます。今回は必ずしも自分の入りたい企業を見学したということではありませんが、工場の雰囲気を肌で感じてきたことと思います。

私が参加したグループでは、ある高校の生徒が全員矢継ぎ早に「従業員の男女比は？」「昨年の採用人数は？」というように質問をしていました。その前向きな姿勢に大変好感を感じました。当然企業の方も同じでしょう。夏休みの企業見学の時は皆さんも出来るだけ質問を用意し、自分を売り込んでくるよう心がけましょう。

就職希望者は来年4月よりどこかの工場で働くこととなります。学校とは違い給料をもらうということはそれなりの厳しさが伴います。夏休みに入れば今度は自分が希望する企業を見学に行きます。今回の見学会を契機に、少しずつ自分が就職するとはどういうことなのかの自覚を高めていくて欲しいものです。同時に真剣に自分の進路のことを具体化していきましょう。

就職希望者は会社研究を



後一月弱で求人開始されます。求人票を見て会社を選ぶというのが基本ですが、そろそろ自分が行きたい企業はどこなのかを、自分で研究し始めて下さい。まだ求人票を見ないと何とも言えないと思うかもしれませんが、昨年度の求人票を見ながら、ある程度自分が行きたい企業の見当を付けるのは大事なことです。

今年の実際の求人はどうなるかわかりませんが、ほとんど昨年と同じような会社から求人が出ると思います。周囲から薦められて行くよりも、ある程度自分の意志で会社を選ぶのは大切なことです。人から言われ何となく入って、直ぐ嫌になってしまうのでは困ります。

昨年の求人票を見ながら色々の会社を見比べている内に自分のやりたい仕事や、入りたい企業が見えてくればしめたものです。実際には個々の会社を見てみないとその会社の雰囲気はわかりませんが、求人票で色々比較している内に色々なことが見えてきます。物を買う場合でも最初は皆同じに見え、どれを買ったらよいか分からなくても、パンフレットを見比べている内に違いが見えてくるものです。

求人票が出てから比較ではなく、是非今から少しずつ比較し、自分にふさわしい会社や職種を見極めて欲しいものです。

人はときおり、
時を待つあまり
なにもせずに
過ごしてしまいがちだ。
だが実は、
時などというものは
いくら待っても
やってきはしない。
そう思ったときこそが、
その時なのだ。
今でいい理由など、
なにもないはずだよ。
(Seven Powers、アレックス
・ロペラ)

